

1 調査の概要について

(1) 目的

各種関連機関等におけるアルコール依存症、薬物依存症、ギャンブル依存症への対応状況、これらの依存症についての知識・理解を把握することにより、川崎市における依存症対策およびそれを推進する人材育成のあり方についての基礎資料を得ることを目的としました。

本報告書では、

- ① 支援機関・支援者は、いつ、どこで、どのように依存症の問題に出会っているか
- ② 支援機関・支援者は、依存症について、基本的なことを理解しているか
- ③ 支援機関・支援者は、依存症についてどのような支援ニーズをもっているか
- ④ 支援機関・支援者は、川崎市にある依存症関連の社会資源をどれくらい知り、対応しているかの点を中心にまとめました。

(2) 方法

依存症関連の相談を受けている可能性のある476施設等（精神科医療機関、内科医療機関、地域包括支援センター、相談支援関係、警察署、行政、自助グループ・回復支援団体等）を対象とし、国立精神・神経医療研究センターに委託、同センターにより設置された調査分析委員会で検討の上、郵送調査として実施しました。

調査票は、施設票と個別票の2種類から構成されており、施設票は施設の種類、依存症についての相談や診療の有無、対応できること、紹介の経験、研修や勉強の機会等についての内容、個別票は回答者の属性、依存症についての相談や診療の経験、対応や理解、取組についての意見等となっています。

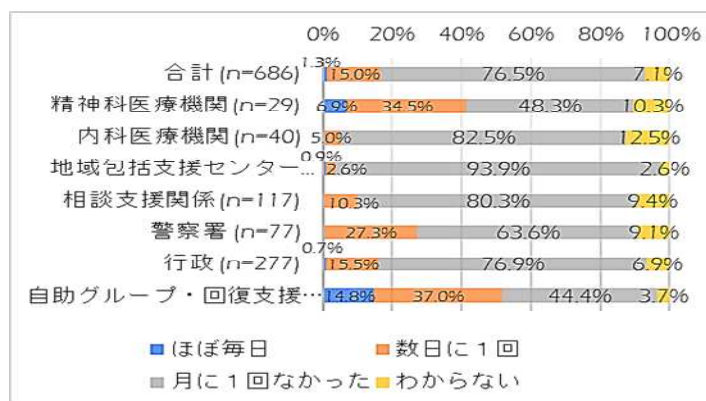
令和2年12月14日に調査票を発送し、回収期間は令和3年1月18日までとしました。その後同年2月16日まで締め切りを延長して回答を受け付けました。

2 主な調査結果について

回答状況：施設票の有効回答数163施設（回答率34.2%）個別票693件（1施設あたりの個別票の回答数の平均は4件）

① 支援機関・支援者は、いつ、どこで、どのように依存症の問題に出会っているか

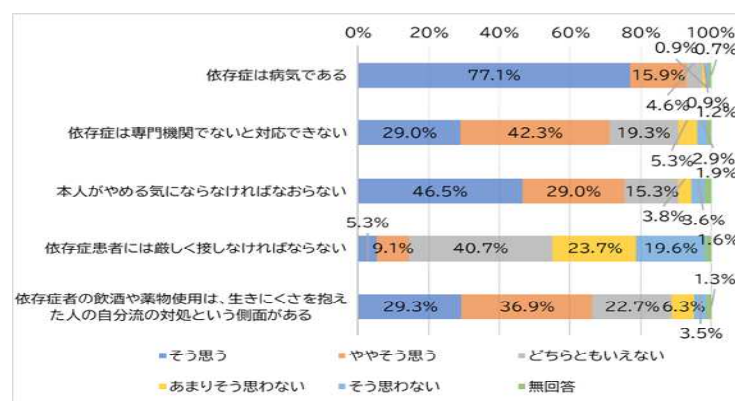
【図1 この1年間のアルコール関連問題に関する相談・診療等の有無と施設種別（個別票）】



多様な支援機関・支援者が、依存症の問題に出会っていることが伺えた。その一方「月に1回なかった」と回答した施設が最も多く、アルコールなどの依存症の問題があっても支援者側から認知されづらい可能性が示唆された。

② 支援機関・支援者は、依存症について、基本的なことを理解しているか

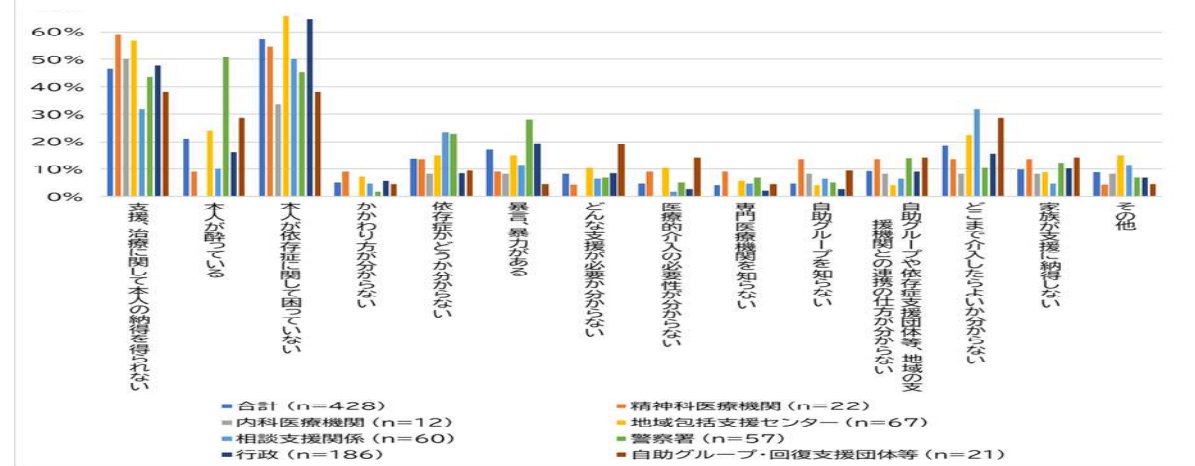
【図2 依存症に関する考え（個別票）】



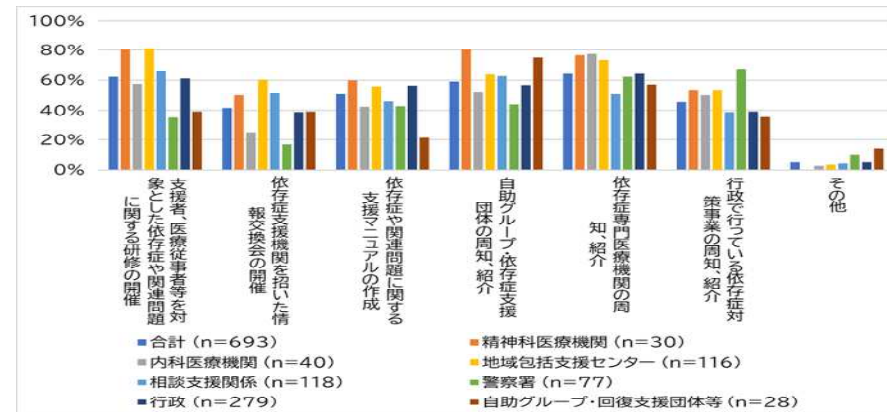
依存症は病気であり、生きにくさを抱えた人の対処であるという認識を持っている人が多い一方で、本人が止める気がなければならぬ、厳しく接しなければならないという回答が多かった。また、専門機関でないと対応できないという回答も多かった。

③ 支援機関・支援者は、依存症についてどのような支援ニーズをもっているか

【図3 アルコール・薬物・ギャンブル関連問題の相談を受けたときの支援で困ったことと施設種別（個別票）】



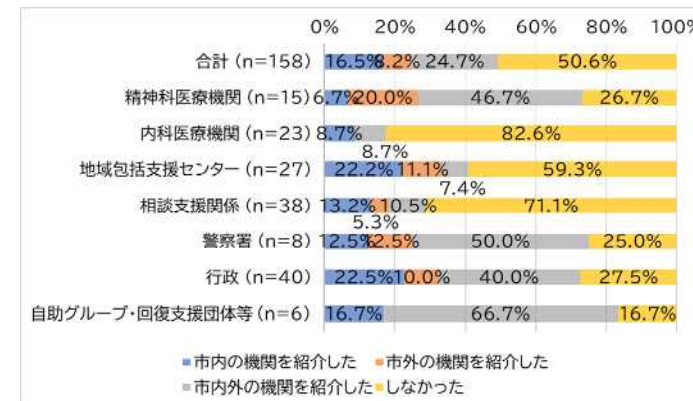
【図4 川崎市の取組として必要だと思うものと施設種別（個別票）】



支援者は本人が依存症に対して困り感がなく、支援や治療に関して納得を得られないことで悩むことが多い。
地域包括支援センターや相談支援センターは依存症の問題に継続的にかかわることがある一方で、どこまで介入したらよいかかわからないことで悩むことも多い。
川崎市に求めることとして、全体としては専門医療機関の紹介や支援者・医療従事者を対象とした研修の開催を求める割合が高い。

④ 支援機関・支援者は、川崎市にある依存症関連の社会資源をどれくらい知っているか

【図5 この1年間に、アルコール・薬物・ギャンブル関連問題に関して、他の機関を紹介した経験の有無と施設種別（施設票）】



全体に市内・市外の医療機関を紹介した経験は少ない。
内科、地域包括支援センター、相談支援センターにおいて自助グループや依存症支援団体の社会資源情報がいきなりづらいうである。
依存症の種類に分けると、アルコールより薬物・ギャンブルのほうがより支援機関や医療機関を紹介しにくい。
医療機関の紹介先については、川崎市内は少なかった。また、本調査分析委員会では依存症の診療機関の不足、依存症の自助グループ等の活動をさらに発展させることが重要であるとの意見があった。

3 今後の方向性

- (1) 依存症に対する初期対応の研修や、依存症に関する普及啓発を広く実施していきます。
- (2) 相談拠点による回復支援、自助グループ等の当事者団体を活用した回復支援の取組など、様々な関係機関が密接に連携し、依存症本人及びその家族に対する支援を推進します。
- (3) 医療機関の不足があるという意見については、引き続き医療提供実態の分析を行っていく予定です。

*本調査では、支援者の依存症の問題がある人への態度を、AAPPQ（アルコールに関連のある患者に対する態度尺度）を用いて調査した。依存症に関する相談頻度が高い支援者ほど、ポジティブな態度であることがわかった。

